

高知県立大学 創基70周年記念式典



高知県立大学は女子医専から数え70周年を迎えたことを記念し、平成28年11月5日、三翠園で記念式典が開催されました。

京都造形芸術大学学長・尾池和夫氏による基調講演「地域の未来と公立大学の役割」や高知県知事・尾崎正直氏、高知県産業振興計画委員・川村晶子氏、南学長による記念シンポジウム「未来創生『高知県立大学』」が行われました。記念シンポジウムでは、大学のこれまでの歩みを振り返りつつ、地域に開かれた「県民大学」として何を期待され、地域や社会とどう連携し、貢献していくのか、熱くディスカッションされました。(副会長 山本雅子)



第51号

しらすぎ会総会は
5月の第3土曜。
2018年5月19日
次回は

在学生と卒業生の連携を

しらすぎ会 第23代会長

山崎 美恵子



同窓会しらすぎ会は1951年に結成され、その目的は結成以来変わらず、会則第2条にある通り「会員相互の親睦・向上をはかり、母校の発展に貢献し、社会文化の進展に寄与すること」です。

昨年度は「支部活動活性化を図る」ことを目的として、各支部に活動費5万円を支援いたしました。各支部で企画・実施していただいた活動へのご努力に対して、感謝と敬意を表したいと思います。

さて、昨年度の活動の結果からは、在学生と卒業生の連携が不十分という課題が新たにでてまいりました。29年度はその課題解決への方策を検討しなければなりません。母校は私たちが在学していた時代と比べると、言葉に言い尽くせないような発展をしています。学生の気質も変化しており、大学と同窓会が綿密に連携を取りながら構わない範囲で情報を共有しなければならぬでしょう。

29年度総会は、会則に則って、南学長の退任に伴い、新しく野嶋学長に名誉会長として就任していただきました。顧問には

五百蔵副学長をお迎えいたしました。また、しらすぎ会本部の理事の半数が交替となりました。現在、卒業生数は12,039名です。

理事会は、この1万2千を超える卒業生が同窓会会員であるという事を念頭に置きながら、本会の目的を達成するべく努力を怠りかねなければならぬと考えています。

27年度・28年度の理事会は月1回の定例会を開催し、盛りだくさんの議題と格闘してまいりました。前向きに、そして決して学部的セクト的でなく、ボランティアの色彩の強い組織として活発に意見を出し合いながら、しらすぎ会の目的達成のために努力して下さったことを、ここに報告させていただきます。

私は1期目の任期を終えましたが、引き続き本年度も変わらぬご協力よろしくお願いたします。

同窓会との連携を 基盤としての発展

しらすぎ会 名誉会長

学長 野嶋 佐由美



私たちにとりまして、しらすぎ会の存在はとも大きく、困った時には相談に行けるところで

あり、頼りになる力強い存在です。平成28年度に大学として行ったことを振

り返りますと、第1に永国寺キャンパスの改装・改築で、ここまでに図書館と食堂が改築されました。第2に創基70周年記念事業の実施。第3には国際交流センターの設置、さら寮の建設。これらの大学の重点事業に関して、しらすぎ会の方々には様々な形でご支援いただいています。

また、昨年度は第2期の中間目標・中間計画を定めることが出来ました。これらをもとにして今後の6年間、どう目標に向かっていくかを考えているところです。

その中で私たちが重視していることが3つあります。ひとつは「多様性」で、留学生や社会人学生など多様な学生を積極的に受け入れ、教育内容をより多様に豊かにしていくこと。2番目には「連携」。現在、大学は関係機関との連携無くしては存在できません。皆様方からの御協力をも得て、さらなる連携の活性化を願っています。3番目には「戦略的挑戦」であり、教育・研究・地域連携が個別に動くのではなく、それらを循環させ、一緒になって推進することにより、本学の歴史的な地域志向や実践志向を大事にするという強みを、さらに可視化することが出来るのではないかと考えております。例えば、災害に関する教育、災害に関する地域社会活動などを連携させながら拠点づくりを行っていくといった考え方もあります。他にも、在宅医療や地域文化というようなことに関しても戦略的な取組みを考えているところです。

そして、学生の経済状況も大きな課題です。本学では授業料免除など、積極的に支援を行っていますが、それでも厳しい状況があります。「あふち寮」老朽化の問題もあります。

現状と課題を紹介いたしました。日頃のご支援に感謝いたします。

図書館の内覧会

5月20日(土) 総会の前に岡村昭一事務局長の案内で
図書館・体育館の内覧会が行われました。

●旧正門と自転車小屋跡に碑があります。「女性の高等教育発祥の地」ここに七十年余の伝統を記す」とあり、高知県立女子医学専門学校開学・高知県立女子専門学校開学・高知県立女子大学開学・高知県立女子学院開設・高知県立大学に名称変更男女共学化と沿革が刻まれています。



また、「勤労者の高等教育発祥の地」ここに六十年余の伝統を記す」と「高知短期大学」の碑や「高知工業学校跡地」の碑も並んでいます。

●体育館は、建物の2階にあり、旧校舎中央棟と正面駐車場

1階は生協の売店と学食になっています。学食は、お昼11時半から13時まで、夕方は16時半から18時まで開いています。学生と一緒に一般の人も利用できます。

●体育館の階段の近くに防災用井戸があります。南海トラフ地震が発生した後の避難生活に備え、井戸を設置する取り組みで、飲用水ではないものの、大腸菌の有無やにおい、にごりの程度など一定の水質検査を行っており、トイレや掃除、洗濯などの生活用水に活用することができ



のあったところです。私たちは外から階段で上がり外から見学しました。体育の授業・クラブだけでなく、空いているときには、一般の人も利用できるそうです。



●図書館は、旧校舎北の実験棟の一部と作法室のところにできています。

1階は、受付、閲覧室1、ディスプレイショールーム、多目的ステップ、中1階は、視聴覚コーナー、閲覧室2(書架数18台約



5万冊収蔵 閲覧席32席)、2階は、グループ学習室5部屋、閱

覧室3(書架数12台約1万5千冊収蔵 閲覧席37席)、中2階は、閲覧室4(書架数94台約15万5千冊収蔵 閲覧席25席) 広々として使いやすそうにできていました。飲食可のスペースもあり画期的です。

●会報50号でお知らせした愛媛支部の西山悦代さん(英文学科8回生)の寄贈された日本画「春宵」が新図書館の壁に飾られています。見学者一同「ああ、これや。これや。」「すごいねえ。」と見入っていました。



●旧図書館は、改修されて学生会館になり、部室になります。来年1月の予定です。

●駐車場と旧体育館は、壊されて「地域交流広場」になります。そのなかにしらさぎ会の記念碑もできます。来年4月の予定です。

●南舎の学生会館は、取り壊して、駐車場となります。(広報担当理事 仁尾 郁)

ようこそ先輩 後輩の皆さん

田村千恵子さん(英文科32回生平成4年3月卒業) 徳島県在住

子どもと出会い、絵本と出会い



私は今、公立中学校の教員をしながら小学校二年生の息子を育てています。四十歳を超えての出産で大変でしたが子育てその分楽しんでいます。息子が生まれて考えたのは本好きの子どもにしたいということでした。私自身が本が好きで本を読むことによって国語の力がついたらと実感していたからです。息子が寝る前はだいたい絵本を読んできました。全部買うには結構高価なので福音館書店の定期購読を利用しました。これはとても便利でいろんなジャンルの絵本の廉価版が定期的に届くので、買いにいったり借りに行く必要がなく続けやすかったです。読み聞かせを続けて実感していることは情緒の安定や親子のつながりづくりにはとてもいい



ということなんです。今でも「お母さん、絵本を読んで」と言ってお楽しみにしています。お気に入りには「ウサギさんの小さな家」です。これは何度も読んでセリフを覚えてしまっています。「科学の友」という理系の絵本も一緒に注文していたのですが、物語よりこちらの方が息子はヒットして、植物や動物にかなり興味を持つようになりました。読み聞かせを続ける中で、自分自身が発見することもありました。子どもはそれぞれ異なる興味の芽をもっていてそれにフィットした絵本はその子ども



▲マンドリンアンサンブル “プレイアディ” 第9回コンサート (2016年オペラ「椿姫」より)

津崎智津子さん(国文学科23回生昭和57年3月卒業) 兵庫県在住

音楽は魂の薬

の世界を広げると思いました。また自分の仕事に生かしたり自分の楽しみに絵本を購入することもありました。私は英語の教員なのですが、実際に授業で英語の絵本を使ってみました。

継続は力なり

マンドリンとの出会いは大学に入学したての4月、たまたま通りかかった部屋から聞こえる美しい調べを耳にした時です。先輩方のように心に響く演奏ができるようになりたい一心で、恥ずかしながら文学の勉強よりマンドリンの練習を頑張ったものでした。それから足掛け四十年、私にとって一番の趣味、特技

読み聞かせは、国語力を目的に始めたことでしたが、むしろ身近な大人が与えてくれる心の栄養という側面が大きいように思います。そして読み手の大人も子どもの反応を見ながら子どもとの性質を知り、子どもへの理解を助けてくれるものだと思います。

時には救いの神であり、大切な宝であり続けています。卒業後は地元の合奏団に入り、ゆるく細々と続けておりましたが、三十代後半、夫の転勤で大阪堺に引越して、高名なマンドリニスト川口雅行氏に出会いました。レベルの高いご指導に学生時代の情熱が甦り、毎日まじめに練習するようになりました。アンサンブルのコンマスや協奏曲のソリストもさせていた

だいたり、中欧や北欧への親善演奏旅行に参加したり、下手の横好きでも諦めずに続けていれば報われる：夢のような数年間でした。

音楽は魂の薬

四十代半ば、熊本に転勤になると同時に認知症の母と同居を始めました。マンドリンはお休まして、近所のオペラ団体に入りました。家で蝶々夫人の「ある晴れた



▲マンドリンアンサンブル “カワグチアーナ” (第2回2016年)

日に」を歌っていると、母もいっしょに口ずさんだり：歌のおかげで私も優しくなれたし母も笑顔になれて、お互い楽しく介護生活を送れたと思います。

三年後、創作オペラでナポリの音楽家の役をいただき、カンツォーネをマンドリンで弾き歌いしました。その経験から、神戸に引越した後も音楽家の方たちからカンツォーネの伴奏を頼まれることが増え、逆にマンドリンアンサンブルをバックにオペリアアを歌わせていただくチャンスも得ました。「歌えるマンドリニスト(残念ながら踊れません)」という「売り」ができましたし、これからも音楽を自らの魂の薬とし、聴いてくださる方に幸せと感動を与えられる演奏家を目指し努力していきます。

第3回ラストコンサートが2018年3月10日16:00、いずみホールにて開催予定です。

太田ゆかりさん(看護学科27回生 昭和56年3月卒業) 神奈川県在住

地域保健・地域福祉の現場から



来年には還暦を迎える年齢になった。振り返れば、転職しながら

も、地方公務員として永く仕事をしていた。現在は、神奈川県西部に位置する人口約一万一千人の松田町で参事兼町民課長兼寄出張所長を担っている。松田町は、東名高速道路の大井松田IC、小田急小田原線の新松田駅、JR御殿場線の松田駅があるなど、古くから交通の要衝となっているが、町の面積の大半は西丹沢山系に連なる山間部が占めている。寄出張所はその山間部にあり、国民健康保険診療所が併設されている。週一日は寄出張所の窓口業務に向いている。



知女子大学家政学部衛生看護学科を卒業し、大阪市立大学医学部公衆衛生学教室の技術職員として、社会人の一歩を踏み出した。当時は、老人保健法施行前、循環器健診のモデルとなる検診を新潟県新発田市ほかで行い、基礎研究に従事していた。これが私の保健婦(師)人生のスタートである。今でこそ、多職種連携といわれるが、医師、薬剤師、管理栄養士、保健婦といった医療系職種がチームで仕事をして

いた。この職場に三年間勤めた後、三年間家庭に入り、現在の職場となる松田町で三年間非常勤保健婦・訪問看護婦として働いた後、平成二年に松田町の行政職となった。保健師という仕事を選んだのは、高知女子大学での公衆衛生看護実習(地域看護実習)で野市町ほかで学んだことが契機になっている。

近年、社会保障制度は大きく変遷し、住民生活に身近な行政サービスは市町村が担うということから、市町村の業務は増大し、保健師の業務も多岐に渡っている。平成九年の地域保健法の施行、母子保健法改正当時は町の保健師の人数は少なく、保健部門で、新生児から高齢者までオールマイティに保健師業務を熟してきた。介護保険制度のスタートとともに、徐々に

保健師の定員も拡充され、福祉部門に保健師が配属されることになった。社会福祉基礎構造改革後の平成十二年に介護支援専門員資格を、平成十五年に精神保健福祉士の資格を取得、平成十六年に人事異動で福祉部門に移り、基幹型在宅介護支援センター、地域包括支援センターを立ち上げ、主任介護支援専門員としても業務してきた。一時、三年間企画財政部門にも在籍したが、平成二十五年に保健福祉部門の管理職に就いている。昨年には、基幹相談支援センター(障害福祉)を立ち上げ、介護

西岡ゆき子さん(国文学科13回生 昭和47年3月卒業) 高知県在住

ともにも生きる



わたしは、平成25年の春、教職生活30周年を終わりました。長かったような、短かったような、もつとやりた

いことがあったような、なかったような...という思いを巡らせます。

今、障害のある子もない子どもにも生活する共生社会をめざす取組みが、国をあげて行われています。世界の動向もわかりです。わたしが教師になりたての頃のことを思うと、すごいことだと思えます。

臨時教員から退職まで、主に知的障害のある子どもたちやそ

ならんで歩く

予防・生活支援拠点施設の新設を調整するなど、機会を捉えてその時にやるべきことに着手してきた。時代の変化に対応するには、情報収集は欠かせないが、自分を活かすという意味で、自己のスキルアップも試みてきた。現在、町の統括保健師でもあるが、専門職の育成ということもあって、看護師の部下とともに、五十の手習いを経て、昨年、社会福祉士の資格を取得した。より、ジェネラリストとしての観点を持って、地域保健・地域福祉に貢献したいと思っている。現在、神奈川県社会福祉士会主

の教育に携わってきました。

先に、教職生活30周年とは書きましたが、小学校での学級担任としての年数より、教育委員会・管理職としての年数がまざっています。しかし、それぞれの立場で、保護者の思いに寄り添い、子どもたちが主体的に、意欲的に生活をしていくことの大切さを痛感し、取組んできました。

障害がある子ども、その子なりに「自分から」「自分で」「精いっぱい」活動・生活できるようにわたしたちはどうしたらいいのでしょうか。

「できない子」ではなく、「できない状況に置かれている子」

催の基礎研修に参加しているが、課題をクリアし、研修を修了することが目標である。仕事では、寄出張所に地域包括支援センターのブランチを設置したが、週一日の相談日では利用者が殆どいない状況であり、その改善が目標である。来年度には、町民課の主管業務である国民健康保険の制度改革を迎える。社会保障制度の大きな変革を見届けることになる。

と捉え、「できる状況」をつくっていくことが周りのわたしたちの仕事かなあ、と思います。

「共生社会をめざし、インクルーシブ教育システムの構築」云々と、国のめざす方向性は、大筋では間違いとは思いませんし、そうあってほしいとも願います。しかし、障害種への配慮や実現への方策については、もう一度じっくり考えていきたいと思えます。

退職後、ある自治体の、上記の共生社会に向けた取組の一端をお手伝いしています。当初は、「アドバイス」程度の要請でしたが、障害のある子どもたちの学校生活を通して見えてくるものがあり、また「どっぶりつかる」わたしの性格上、日々忙しく学校通いをしています。

しらすぎ会 ● 各支部だより

高知県支部

「学生と一緒に作る高知の郷土料理」

●昨年、支部の活性化及び母校の発展・社会文化の進展に寄与する活動への支援として「学生と一緒に作る高知の郷土料理」を企画しました。メニューは、田舎ずし(五種)、ゆずドリンク、ゆずゼリー、土佐茶の入れ方としました。時期は、12月5日(月)、場所は、大学の調理室、実習は午前・午後の2回となりました。9月17日に試作と打ち合わせをして本番に臨みました。

1回目(12:30～14:10)参加者学生17名 卒業生16名

2回目(14:40～16:15)参加者学生9名 卒業生17名
(合計59名)

前日の準備や当日の学生との交流を通して、久しぶりの

母校での調理実習はなつかしく良い思い出になりました。終了後のアンケートには、「高知の伝統料理を作る機会が少ないので勉強になりました。卒業生とお話ししたことがなかったの、いろいろ聞けて楽しかったです。」「就職についてもいろいろお話いただいてとてもためになりました。卒業しても、こういう形でつながっていることが実感できて、県立大いいなと改めて思いました。」など学生が高知の郷土料理に興味を持って参加し、卒業生(しらすぎ会員)との会話を楽しみながら実習できたと思います。

(支部長●麻田節子/生活科学科10回生)

東海支部

今、東海が熱い



●今、東海が熱い。東海地方は日本の真ん中、経済は好調。世界のトヨタがあるし国産ジェット機も造っている。日本初のレゴランドも出来た。商業施設の入る高層ビルも林立してきた。たまに名古屋駅に出かけると、その変貌ぶりに驚く。迷子になりそうだ。文化面も充実している。名古屋城の木造復元も実現しそうだし、秋にはピーターラビット展も開かれる。電車を使えば伊勢神宮にも簡単に出かけられる。高速道路を使えば京都にもひとつ走りだ。海も山も近くにあり自然も豊かだ。セントレアを使い世界に飛びたつことも出来る。あらゆるところが元気だ。その東海で東海支部約250名は毎日を元気に過ごしている(かな?)。

昨年、東海支部の同窓会では懐かしの高知に紙上旅行を試みた。みな青春を過ごした高知に思いをはせた。本当に懐かしかった。しかし懐かしの高知に帰ることは殆どない。今私たちはこの熱い東海に住み、変化に富んだ生活を楽しんでいる。同窓会に集まるメンバーは徐々に高齢化するが、一年に一度の集まりをととても大事にしている。この東海を大事に、集まる仲間と東海地方の紙上旅行を試みるのも一興かもしれない。同窓会は見知らぬ人々をつなぎ、その縁を少しずつ広くしていく。

しらすぎの仲間たち、皆様もぜひ、東海にいらしてください。

(幹事●山本眞理子/国文学科16回生)

広島県支部

活動の在り方を考え直す



●昨年秋に開催した広島支部会(第16回)は、県東部にお住まいの加納三千子さん(生活・14回生)と小畑千博さん(同)のお世話で実現した、これまでとはまた違う内容のものでした。

目的は、福山市鞆町に在る「さくらホーム」の見学です。ここでは、地域に根差した介護事業を展開しているところで、江戸時代の商家を改装した建物は、歴史とロマンを感じさせる鞆の町並みに穏やかにとけ込んでいました。施設長の羽田富美江さんから、この事業を始めることになった動機や日頃の活動の様子などを伺い、高齢者と地域社会の望ましい係わりかたについて考える良い時間を持つことができました。

その後、昼食のため「御舟宿いろは」に移動。こちらは、いろは丸沈没事件で坂本龍馬が紀州藩と交渉した町家・旧魚屋萬蔵宅です。現在は宮崎駿監督のデザインを取り入れて修復され、旅館として甦っています。

昼食後、ご参加いただいた川口順子理事(当時)と7名の支部会員で、“これからの支部会活動”について話し合いました。広島支部が誕生して26年。先細りとなっている活動の在りかたを根本から考え直そうという、そのスタートです。ただ、当日はあまり時間が無く、日を改めて会合の場を持つこととなりました。支部会の、二年に一回開催はこれでいいのか?その世話役の選び方、内容…。これまで何となく行われてきた活動を見直すところから、始めることになると思います。他にも話し合わなければならないことが有るでしょう。

広島支部の皆さんの協力を得ながら、支部会活動を進めてまいりたいと思っています。ご意見やご提案などをぜひ、お寄せ下さい。

(支部長●田中めぐみ/国文学科9回生)

京阪神支部

様変わりしたキャンパスで

● 5月20日、初めて「しらさぎ会」総会に出席してきました。

卒業以来四十余年、足を踏み入れたキャンパスは、すっかり様変わりしていて、見覚えのあるのは旧図書館の建物だけでした。

会場の「教育研究棟」がわからずウロウロしていると、息子よりも若い男子学生に遭遇し、場所をたずねると「ちょっと離れているのでご案内します」とのこと。道中、高知女子大学の同窓会総会で大阪から来たことを話すと、「あ、図書館の資料で見ました。昔、女子大だったんですね!」の返事。「???…」の想いでしたが、兵庫県出身だという彼に、無事に会場まで連れて行ってもらいました。

日頃同窓会活動には消極的でしたが、会の運営のため

に尽力されている先輩方の勇姿に触れ、地方の小規模な大学ではありますが、全国に散らばっている優秀な(笑)同窓生の絆が、より深められたら…と強く感じました。

良いお天気の中、親切で快活な青年に出会って、共学になったことを再認識し、これからの母校のますますの発展を祈った一日でした。

(副支部長 ● 森 千涼 / 英文学科 15 回生)

しらさぎ会京阪神支部総会は「来年」です。

日時：平成 30 年 11 月 11 日 (日曜日) 12:00 ~ 15:00

場所：ホテルグランヴィア大阪

ぜひ今から予定に入れて、ご参加下さい。



地域に開かれる大学

岡山県支部

● 本年度よりしらさぎ会岡山支部長を拝命し、5月20日に行われたしらさぎ会同窓会総会に参加させていただきました。

総会に先立ち、新築間もない体育館アリーナ、図書館を案内いただき県立高知女子大学から高知県立大学へとその規模も内容も大いに発展しているさまを目の当たりにし感激の一言です。

私の知る大学とはどちらかと言えば閉ざされた世界というイメージが強かったのですが、案内くださった事務局の方によればアリーナ1Fの学食も図書館も学生さん達の妨げにならない範囲で地域に開かれているとのこと。

そして災害時には避難所としての役割も担っていると。

まさに「域学共生」を実践されている様子に、時代とともに大学の在り方も変わっていくものと痛感した次第です。

今年度岡山支部総会は8月20日(日)に開催されます。今年は間に合いませんでしたが、この新しくなった高知県立大の姿を是非岡山県支部の会員の方々にも見ていただきたいと新たな企画も考案中です。

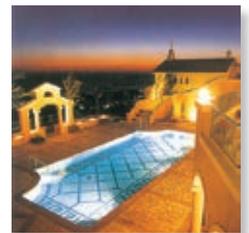
会員数300名にも満たない岡山支部ではありますが一人でも多くの方が支部総会に参加くださり、母校の発展、躍進を実感するとともに卒業生、在校生としての誇りを強くしていただきたいと願っています。

(支部長 ● 平岩博子 / 国文学科 21 回生)

九州支部

九州支部

長崎で開催



● 昨年の熊本地震、今年7月5日の九州北部豪雨災害と災難が続きますが、福岡や大分の皆さんは被害にあわれていませんか。しらさぎ会として被害状況についてお尋ねがあれば宜しくお願いします。

今回初めて長崎で同窓会が実現します。

地元の方には沢山参加してほしいです。

2年前に福岡で開催した時に参加されていた大石(看護)さん、武富(福祉)さんを中心に準備していただきました。長崎県には会員が85名程いてそのうち佐世保が一番多いので、そこに決めたそうです。会場も九十九島を臨む絶景の場所です。2月には長崎県内の方に準備会の事で呼びかけた時に地元の清原(看護)さんと熊本から私、福岡から田中さんと5人で佐世保で打合せをしました。(しらさぎ会より支部支援金が出ましたので、それを活用しました。)

九州支部の案内はすでに届いていると思いますが、ぜ

ひご参加をお願いします。新しい同窓生、懐かしい友達に会えて歓談できるのも楽しみです。いつも参加されている福岡、佐賀、熊本、鹿児島島の皆さんは勿論、大分、宮崎、沖縄からもぜひおいでください。(支部長 ● 宮川麗子 / 看護学科 14 回生)

しらさぎ会九州支部総会のご案内

日時：平成 29 年 10 月 21 日 (土曜日) 12:00 ~ 15:00

場所：弓張の丘ホテル レストラン「汐彩」

佐世保市鶉渡越 510 TEL0956-26-0800

内容：しらさぎ会会長 山崎美恵子先生をお迎えして、「母校の今、しらさぎ会の状況など」

会費：6,000円(昼食代等)

申込み、問い合わせは大石博美さんまで

携帯 090-4778-5268 自宅 0956-31-0197

愛媛県支部 幅広い参加

● 51回目の愛媛しらすぎ会の準備は、引き継ぎを兼ねた食事会からスタートしました。料理も気に入りその場で会場予約、講師の先生も希望を伝える形で事務局に連絡し、決定の連絡をいただきました。

6月25日(日)総会当日は学歌の斉唱からスタート。事務局から送っていただいた学歌のCDのおかげで、学歌を知らない会員も一緒に歌うことができました。高知県立大学から、地域教育研究センター特任教授の佐藤恵里先生をお迎えし、『神祭の芸能』についてお話を伺いました。クラス担任をしていただいた佐藤先生のお話が懐かしく、また背筋が伸びる思いでした。しらすぎ会理事の梶原和歌先生からは野嶋新学長の就任と、支部担当として大学のニュースを各会員に伝えたいというお話を伺いました。

こうして毎年開催できるのも、会員の皆様が母校を愛

し、誇りに思い、大切にされているからこそ。それぞれの分野で

充実した日々を過ごしていらっしゃるようで、フラダンスや詩吟、コーラスやオカリナを楽しんだり、産休中の方からダイヤモンド婚を迎えましたという先輩も。幅広い会員の方に楽しんでいただきました。しらすぎ会への参加が1年元気だった証、来年もまたお会いできるのを楽しみにしています。

今年は幹事という大役を引き受けながら初めての参加。手探り状態でしたが皆様に喜んでいただけてよかったです。もっと早く参加していればという気もありますが、先は長いのでこれから…。

(幹事●屋宮真知子/国文学科32回生)



支部活動に新しい風を 香川県支部

● しらすぎ会香川支部の会員の皆様、お変わりございませんか。香川支部総会は2年に一度、開催しています。今年には支部総会の開催の年です。今年の総会に新企画を取り入れられました。同窓会の皆様、お誘いあわせの上、より多くの方々をご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。

昨年5月しらすぎ会総会で「同窓会の活動に新しい風を」という趣旨で、しらすぎ会から五万円の支部支援金が出ました。そこで、支部役員会では会員のご意見・ご要望を今後の支部活動に生かすことにより、支部活動の活性化につながるのではないかと考え、昭和45年から平成13年までの卒業生にアンケートを依頼し、93名の方から回答をいただきました。ご協力に感謝いたします。

「どのような企画があれば出席したくなるか」の設問で、ミニコンサートを希望する方が27名おられました。役員の人知人に依頼したところ、快くおひきうけしていただき、林真弓様の演奏を拝聴して楽しく有意義な時間をおすごしいただけたらと思います。役員一同会員の皆様が参加してよかったですと感じていただけるよう、これからも頑張っていきます。

● お知らせ

香川支部は「会報しらすぎ ～ようこそ、先輩後輩のみなさん～」の原稿依頼を2018年と2021年に受けています。ご協力よろしくお願ひいたします。

(支部長●嶋村洋子/家政学科1回生)

しらすぎ会香川県支部総会のご案内

日時：平成29年11月18日(土曜日)
場所：高松国際ホテル 栗林の間
高松市木太町2191-1 TEL087-831-7220
総会：10:30～12:00(受付10:00)
懇親会：12:00～14:30(会費3,000円)
ミニコンサート：演奏者 林真弓様
来賓：しらすぎ会会長 山崎美恵子様
支部会費：1,000円(年間500円 2年分)
連絡先：嶋村洋子(昭和43年卒 家政学科)
自宅087-848-0618

徳島県支部 私にとっての「同窓会」活動とは？

● 私にとっての「同窓会」活動は、自分を初心に戻してくれるものです。私は、卒業後すぐに東京で働き始めましたが、その時に同じ職場におられた先輩から声をかけていただき同窓会に出席しました。社会人として不安も大きい中、お会いしたこともない先輩から親しく声をかけていただき、ホッとしたことをいまだに覚えています。出身地(徳島)に戻ってからも、本会報に支部総会の案内が出ているのを見つけ、担当者の方に連絡をさせていただき、同窓会に出席するようになりました。そこでも、学科も世代も異なる初めてのお会いする先輩から旧知のよ

うに親しくしていただき、支部の役員に迎えていただきました。支部総会までに何度も集まり準備をする姿に感銘を受けました。最近、当時の先輩方の中には高齢のため、役員を退かれたり、同窓会に出席されなくなった方もおられます。しかし、その方々のおかげで現在のしらすぎ会徳島支部があると思い、深く感謝しております。

暖かく迎え入れて頂き、仲間にしていただいた体験は、私を人に関わる時の原点、つまり「初心」に戻してくれます。(支部長●多田敏子/看護学科19回生)

山口県支部

出席者を増やす事から

●今年には2年に一度の支部総会開催の年です。
 第5回目の今年には地域に出て地元山口の再発見をしようということで10月8日から始まる「アートふるやまぐち」にあわせて日程を決めました。
 山口の中心部にある長州藩梅田邸お屋敷を再生した趣ある「瑞穂茶寮」で山口の旬菜を味わった後「アートふるやまぐち」の会場を散策します。大内文化の残る古い町並みをいろんな催しをみたり参加したりしながら、疲れたらお茶をして楽しい時間を過ごしたいと思います。
 前回は支部会員60名のうち出席者は6名でした。返信ハガキも半数に満たずとても寂しい思いでした。卒業してから四十数年がたち大学から距離的に遠く同窓生も少なく繋がりもなく・・・高知は懐かしいだけの存在になっていましたが誘われて支部総会に出席し、何時の間にか支部長を引き受ける事になり代議員会にも出席するよう

になって母校の現在を知ると、記憶の彼方に在ったあの頃が思い出され、大学での4年間は学問だけでなく人生においても大きな財産になっているのだと今更ながら思います。
 支部支援金を頂いて山口支部のように少人数で何ができるのか、先ずは出席者を増やす事に尽きるのではないかと考えています。少ない参加者でイベントを組むのは難しく、まずは地域に出て行って山口でも頑張っている高知県立大の卒業生がいることを知ってもらいたい。そして若い卒業生にも何かの時にお手伝いできるかもしれない頼もしい(?)先輩が山口にもいることを知ってもらいたい。支援金をどのように使うか現在役員で検討中です。
 今回どれ位の方に集まって頂けるのか期待と不安の中返信ハガキをまっています。
 (支部長●岡村志津枝/国文学科13回生)

関東支部

支部総会から始めましょう！

関東支部では、支部総会・懇親会を2年ごとに開催しています。今年も、11月19日(日)12:30～アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催します。
 関東、山梨、東北在住の約500名が会員です。高知から遠く離れた関東で生活していると、それぞれの地域や職場では活躍されているとは思いますが、県立大学同窓生としての意識や交流はない方がほとんどだと思います。
 しらさぎ会総会で高知県内での県立大生の活躍や県立大学の地域連携を伺い、うらやましく思いました。支部総会が、

大学で学んだことやそれぞれの立場で得たことなどを情報交換できる場や親睦を深める場になればと考えています。
 今、役員会では、支部総会にたくさんの方にお越しいただくにはどうすればよいか、名簿作成の必要性や支部運営、会員の声や情報を寄せられる関東支部ホームページの活用、支部活性化計画などについて話し合っています。皆様のご意見をお聞かせください。
 支部総会に多数の皆様がご出席くださいますようお願いしています。
 (副支部長●大西郁代/生活理学科9回生)



カラーコーディネーターとして
 ナーとして
 り方トレ
 ジメント
 ギャマネ
 ンガーマ
 心理学、
 ケーショ
 コミュニ
 をはじめ
 色彩心理
 学

平成二十八年十月二十二日
 大学祭が行われている池キャンパスの共用棟会議室で、しらさぎ会は大学生向けに「カラー講座」を開催しました。参加者は五十人。
 講師の山崎真理さんは、一級カラーコーディネーターとして

平成28年度 学生支援事業

カラー講座 色を味方にステキに自己表現

たった三秒でなりたいたい自分になれる！

全国で活躍されています。
 学生の就職活動の成功のために、第一印象が決め手となるので、自分の魅力を引き立てる色選びがポイントとなるなど、面接者から見たアドバイスをいただきました。日ごろから色彩の力を使って前向きに自分磨きをする大切さを教えられました。
 色彩心理のグループ討議なども行い、学生、同窓生が交流することができ、楽しく一時間半を過ごしました。
 開催に当たっては、大学の教職員、特に学生部と学生支援部の皆様のご協力をいただきました。
 (事業担当理事 池上美佐子)

平成29年度各支部会員数(29年3月卒業生を含みます) 人		
関東支部 (東京、神奈川、埼玉、千葉、茨木、栃木、群馬、山梨)	502	(うち新加入5)
東海支部 (愛知、岐阜、長野、三重、静岡、新潟)	270	(うち新7)
京阪神支部 (大阪、京都、奈良、和歌山、兵庫、滋賀)	875	(うち新40)
岡山県支部	290	(うち新9)
広島県支部	232	(うち新14)
山口県支部	62	(うち新2)
香川県支部	496	(うち新15)
愛媛県支部	591	(うち新14)
徳島県支部	605	(うち新9)
高知県支部	3,537	(うち新115)
九州支部 (福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)	553	(うち新18)
以上、11支部35都府県に居住の卒業生	8,013	(うち新加入248)
支部の無い県に居住(支部に属さない)卒業生	357	(うち新加入21)
国外在住者	42	
物故者	248	
大学院生の内学部卒業生	138	
居住地不明者、その他	3,241	
平成29年4月末現在の卒業生の総数は12,039人		
学部卒業生・大学院修了生の総数=12,039人(8,013+357+42+248+138+3,241)		

平成28年度 事業報告

(1)会議について

①平成28年5月21日(土) 高知県立大学永国寺キャンパスにおいて総会開催

②理事会は計11回開催

③平成28年3月24日(木) しらすぎ会会長・副会長と大学幹部職員との情報交換会

④平成28年11月17日(木) しらすぎ会本部理事と大学との合同情報交換会

※③④については28年度試行的に開催されたので事業計画にはなかったが、大学との連携という事であり、大学との連携である今年度は計画に明記

(2)記念モノユメント建設への取り組み

①平成28年12月14日(水) 記念碑建設委員会



※新宮晋氏夫妻、委員7名、野嶋副学長と午後からの会議についての打合わせ

②同日午後 記念碑モノユメント建設に向けて関係機関との協議会

※新宮先生ご持参のモノユメントのミニチュアを鑑賞しながら、設置場所や諸々の条件についての協議。平成30年4月上旬完成予定

(3)支部活動

●11支部中7支部において支部総会が開催された

●支部企画実施は受付順に8支部で実施された

(4)高知県立大学創基70周年記念に関する活動

梅原真氏による記念講演 「ウメバラマコトのアタマの中」に91名の参加

(5)広報活動

①「会報しらすぎ第50号」発行

②「高知県立大学同窓会しらすぎ会」ホームページの更新

(6)学生支援

①奨学金貸与50万円1名

②卒業式・終了式に山崎会長出席、お祝いメッセージと袱紗贈呈(卒業生数293名)

③入学式に山崎会長出席、お祝いメッセージと校章贈呈(入学生数395名)

④在学生対象の講座、山崎真理氏を講師に「カラー講座『色を

味方にステキに自己表現』開催、在学生21名参加

7)国際交流への支援

①「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」さくらサイエンスプランへの活動支援

②高知県立大学看護学部がジャマダ大学短期研修への支援

●高知県立大学「さくら寮」へベンチ一基設置

意見交換会

(関東支部)

●民間の奨学金を借りている学生はどのくらいいるのだろうか。できるなら同窓会による奨学生をひとりでも増やしてあげたい。

●今年支部総会へ本部入選の理事や講師に来ていただきたい。

●昨年英文科の先生に来ていただいたところその時の卒業生がどっと集まった。

●しらすぎ会のホームページが大学とリンクできたことが嬉しい。

●会員との情報交換をメールですていきたいと考え、まずは役員のメール交換をしている。

(京阪神支部)

●4月に新役員となり2回の会を持った。

●初めてこの会に参加したが活発な意見交換がされていると感じた。

(岡山支部)

●支部支援金は会員名簿の充実のための通信費や大学の学歌C

D作成などにあてた。

●会員は本部の方の講演を楽しみにしている。

(広島支部)

●会員相互の親睦を深めるといふ目的をどう達成するのか考えているところ。

●支部総会の幹事役世話役を幅広く求めようということでも話し合いを持つ予定。

●現役の学生へのしらすぎ会PRは大事。各地の支部活動の活性化にもつながるのではないかと考える。

(山口支部)

●在校生へのアピールは重要なので、学内にしらすぎ会の掲示板を置いてもらい、活動状況など情報発信してはどうか。

(香川支部)

●支部活性化についてアンケートを実施した。

●そのアンケート結果を踏まえて今年度はミニコンサート開催を予定している。

●支部総会とは別にモノユメント完成後に大学見学ツアーを実施したい。

(愛媛支部)

●幹事が何科であるかで参加者の顔ぶれが違ってくる。

●これまで国文科が少なかつたので今年には国文科が幹事となり講師は佐藤恵理先生をお招きする。

(徳島支部)

●支部総会案内の往復はがきに近況等を書いてもらっている。

●新しい方が参加すると新しいネットワークができる。幹事が交替したり、呼びかけ方を変えるのも大事。

●昨年度、支部支援金の活用として在学生を支部総会に呼ぼうとしたが授業があつて参加がなかった。次回は開催日を8月にして在学生の参加を実現したい。

(高知支部)

●支部支援金企画「一緒に作る高知の郷土料理」には現役学生も多数参加し、たいへん好評であった。

●高知県は会員が多く、3地区すべての活性化を考えている。

●総会後の研修は新聞等で広くお知らせして一般県民の方とも交流している。

(九州支部)

●地震の際にはご支援ありがとうございました。同窓会との繋がりを感しました。

●出身大学からお手紙をいただいたという事で、皆喜んでいました。

●九州支部は若い卒業生の参加があまりないので広がってほしい。

平成29年度事業計画(総会承認)

- ①文化学部、社会福祉学部、看護学研究科創設20周年記念事業への協力
- ②高知女子大学発祥の地記念モノユメント建設(平成30年4月上旬完成予定)
- ③支部活動支援、学生支援、会員との連絡、調整

平成28年度決算 (H28.4.1 ~ H29.3.31)

○一般会計・収入の部 (円)				
項目	H28年度予算	H28年度決算	増減	備考
繰越金	6,240,453	6,240,453	0	
入会金	4,214,000	4,214,000	0	14,000円×301(学部生272+院生29)人<本学学部および研究科出身者を除く>
利息	—	195	195	奨学金返済金口座も含む
奨学金返済金	560,000	450,000	-110,000	S02-1:9万円 S07-1:2万円 S09-1:6万円 S09-2:6万円 S10-1:6万円 S10-2:6万円 S11-1:10万円
前年度寄付金	15,870	15,870	0	H27年度寄付金
その他	0	0	0	
合計	11,030,323	10,920,518	-109,805	

○一般会計・収出の部 (円)				
項目	H28年度予算	H28年度決算	増減	備考
事業費	5,780,000	4,606,917	1,173,083	
学生支援費	2,100,000	1,527,112	572,888	
会議費	3,150,323	34,060	3,116,263	
交通費				
事務管理費				
予備費				
合計	11,030,323	6,168,089	4,862,234	

次期繰越金 10,920,518 - 6,168,089 = 4,752,429

○特別会計・基本金 (円)				
項目	H28年度予算	H28年度決算	増減	備考
繰越金	14,199,419	14,199,419	0	H27年度繰越金
入会金	301,000	301,000	0	H27年度卒業生1,000円×301名
利息	—	31,090		
合計	14,500,419	14,531,509		

○H28 モニュメント募金 (円)	
内訳	金額
H28年度募金(現金)	0
H28年度募金(銀行振込)	0
H28年度募金(郵便振込)	144,000
手数料	-780
合計	143,220

○モニュメント支払い (円)	
内訳	金額
H27年度(新宮アトリエ 記念モニュメント契約時支払い分として 上記等にかかった手数料 864×2)	2,320,000
H28年度(新宮アトリエ 構造計算及び基礎設計料として 上記手数料)	500,000
合計	2,822,160

○モニュメント募金総額 (円)	
内訳	金額
H25年度募金	3,830,750
H26年度募金	1,299,352
H27年度募金	1,480,892
H28年度募金	143,220
合計	6,754,214

○H28 寄付金(一般) (円)	
内訳	金額
H28年度募金(振込)	2,000
手数料	-130
合計	1,870

監査報告 領収書、出納簿、預金通帳等監査した結果、財務が適正に処理され、誤りなどの問題がないことを認めます。

平成29年4月13日 永尾 朱美 西谷 抄希穂

現募金総額残高	6,754,214 - 2,822,160 + (利息 977 + 707 + 671)	3,934,409
---------	--	------------------

○在学生預かり金 (円)		
項目	H28年度決算	備考
繰越金	19,412,232	H25 = 310人(他に学部生3名未納)、H26 = 303人(他に学部生6名未納)、H27 = 317人(他に学部生29名未納)
H28年度入学生	5,385,000	15,000×359(学部生364名(内16名未納)+院生31名)
未納者入金	270,000	15,000×18人(H25入学生1名、H26入学生2名、H27入学生13名、院生2名)
H27年度卒業生	-4,515,000	15,000円×301(学部生272+院生29)人<本学学部および研究科出身者を除く>
利息	51,399	
退学者返金	-225,000	15,000×15名 H27年度退学者返金
振込手数料	-1,728	
合計	20,376,903	

南裕子 共同災害看護学専攻 教授

石山貴章 看護学研究科特任教授

横井輝夫 地域教育研究センター教授

原田圭子 同助教 藤森紗磨美 同助教

助教 島山典子 社会福祉学部教授

瀧めぐみ 同助教 田村美和 同助教

看護学部准教授 渡邊聡子 同助教

看護学部長 高知短期大学学長 野嶋佐由美 看護学研究科特任教授

高知県立大学・高知短期大学学長 野嶋佐由美 看護学研究科特任教授

採用教員(平成29・4・1)

●採用教員(平成29・4・1)

高知県立大学・高知短期大学学長 野嶋佐由美 看護学研究科特任教授

健康栄養学部教授 和田安彦 地域教育研究センター教授 羽田行男 同特任教授 藤原恵里 人間生活学研究科特任教授 萩沼一男 看護学研究科(かんぽろ)特任助教 橋本理恵子

原美映子 同助教 橋本香 社会福祉学部助教 二本柳寛 同助教 橋本力 健康栄養学部教授 和田安彦 地域教育研究センター教授 羽田行男 同特任教授 藤原恵里 人間生活学研究科特任教授 萩沼一男 看護学研究科(かんぽろ)特任助教 橋本理恵子

●退職(平成29・3・31)

高知県立大学・高知短期大学学長 南裕子 高知県立大学副学長・看護学部教授 野嶋佐由美 同講師 石川麻衣 同助教 大西ゆかり 同助教 岡本麻由美 同助教 西塔依久美 同助教

人事消息 (敬称略)

大学の現在

準硬式野球部



準硬式野球部に所属しています。小学6年から始めた野球ですが、大学ではやらないつもりでした。しかし、新歓のサークル紹介で野球部の先輩方のお話を聞いて、「またやってみようかなあ？」という気持ちになりました。

高校時代は男子に混じって硬式野球部でプレーヤーとして活動していたのですが、規定で公式試合には出場できず、最後の夏大会も悔しさが残る結果となりました。

大学では公式戦にも出場できるので、試合に出場できるのが素直に嬉しいです！ヒットを打ったり仲間のファインプレーを見たときは、もっと嬉しいです（笑）。

準硬式野球部の良いところは、みんなで楽しく野球ができることです。試合でミスをしたらそれを笑いに変えて盛り上げたり、オフの日にはみんなでBBQをしたり、楽しいことがたくさんあります。今夏の四国インカレでは念願の初優勝を成し遂げました！

大学生活も残り半分ですが、サークルに勉強に、毎日充実した日々を送りたいです！

(文化学部3回生 坂田としみ)

太鼓部



私は現在太鼓部に所属し、様々な地域に足を運んで地域の方々と触れ合いながら活動を続けております。以前までは地域のお祭りでの演奏や、老人ホームでのイベントの一環として叩かせていただいたり、入学式や紅葉祭等の学校行事で叩かせてもらうことが主でしたが、2017年に入ってから龍馬マラソンの沿道応援隊として約2時間弱という非常に長丁場での演奏をランナーの方々のために精一杯行いました。同じように応援に来ていた地域の方々やランナーの方々からも「ありがとう」「がんばって」といった温かいお声かけもいただき、よりいっそう私たちの励みになりました。

また、7月にはミュージカルオペラ「龍馬」の団体から出演のお話をいただき、ミュージカルという舞台の中で太鼓部として叩かせてもらうという、普段とはまた雰囲気の違い演奏を披露することができたのではないかと感じております。

新たな試みに挑戦していきながらより太鼓部として活動を広げていくことができるよう日々精進していきたくと思います。

(社会福祉学部3回生 山本拓末)

全国の公立大学生と連携しています！



私は現在、全国LINKtoposの運営委員と、高知LINKtoposの代表を務めさせていただいております。LINKtoposとはLINK（繋がり）+topos（哲学を議論する場）であり、英知を結集する場を作りたいという願いを込めてつけられた公立大学学

生ネットワークおよび全国学生大会の愛称です。LINKtoposには北海道から沖縄まで全国の公立大学から、それぞれの地域の課題解決に取り組む仲間たちが集まり、英知が結集されます。

そこには、公立大学生の“志”があります。私は昨年初めて参加しましたが、とても刺激になり、「同じ志をもった仲間が全国にいるんだ！」と胸が震えました。

今年のLINKtoposは「Discover Ourselves」をテーマに、10月に大阪市立大学を主会場に開催されます。全国の学生たちの多様な価値観に触れ、各地の課題に向き合うことで、いままで見えてこなかった私たちを発見して欲しいという思いで準備を進めています。

全国の仲間と共に一歩踏み出す。この思いを胸に、今後活動を続けていきます。（文化学部4回生 島野真帆）

立志社中「イケあい地域災害学生ボランティアセンター」



イケあい地域災害学生ボランティアセンターは立志社中の団体です。「災害時に大学周辺地域での被害が最小限にとどまり、いち早く復旧できる」ことを目的に、地域で防災活動や顔の見える関係づくり、ボランティアセンター（以下VC）

運営研修などを行っています。本年4月には『災害VC説明ムービー』を製作し、部員が集まる場や地域活動で活用したり、5月には南国市のお祭りに団体紹介や災害に関する体験ブースを出店し、活動地域を広げました。6月には初めて東京や四国の大学生・災害団体と互いの活動を紹介し、災害について考える機会を持ちました。7月には三里地区で2度目の災害VC運営模擬訓練を行い、地域住民の方々と共に、部員が実践的にVC運営について学びました。また九州北部豪雨発災後には、高知工科大学の防災団体と連携して募金活動を行い、九州の仲間に活動支援金を送りました。

今後も様々な活動に挑戦し、繋がり強化と地域の防災力を高めます。

(看護学部3回生 大岡千尋)

ベンチ



平成29年3月池キャンパスのグラウンド南側に学生寮「さくら寮」が完成しました。

さくら寮は日本人学生と外国人留学生等が、共同生活を通じて互いの文化や習慣、宗教などの違いを理解、尊重し相互の交流を深めながらも学業に専念できる安心かつ快適な環境の国際寮です。

しらさぎ会は学生寮の広場に学生たちがくつろげるようにベンチを寄贈いたしました。（広報担当理事 水田佐智子）

北九州豪雨災害支援
九州支部長 福岡県幹事、大分県幹事と相談し、福岡県朝倉市と大分県日田市にお住まいの卒業生9名に、お見舞いの手紙を出しました。

■訃報
高知女子大学学長を務められた青山秀康氏のご逝去されました。氏は、03年から07年まで学長に在任し、女子大共学化など県立大改革の懸案に対応されました。

リーダー通信

